

令和3年2月15日

研究科長 殿

審査委員

主査 本間 生夫

副査 木村 友昭

副査 藤本 英樹



学 位 論 文 審 査 報 告 書

学 位 申 請 者	保健医療学研究科 鍼灸学専攻 平成30年度入学 氏名 立川 諒	学 籍 番 号	5218001
申 請 学 位	博士(鍼灸学)		
学 位 論 文 題 目	運動負荷によるヒト認知機能低下モデルに対する鍼刺激の影響について(第2報		
成 績	合 格		
審 査 期 日	令和3年 2月 8日 ~ 2月 15日		

注 1 論文審査の成績は、合格又は不合格とする。

2 学位論文審査要旨を添付すること。

学 位 論 文 審 査 要 旨

審査委員

主査 本間 生夫

副査 木村 友昭

副査 藤本 英樹



学位論文提出者

保健医療学研究科 鍼灸学専攻

平成 30年度入学

氏名 立川 諒

学位論文題目

運動負荷によるヒト認知機能低下モデルに対する鍼刺激の影響について(第2報)

学位論文審査の要旨

本学位論文の研究は運動負荷による事象関連電位の変化に対する鍼刺激効果を調べたものである。事象関連電位は聴覚Oddball課題により誘発される脳波上の変化であり、約300msec後に生じる陽性波である。このP300は思考や認知機能を反映し、運動負荷により減弱することが先行研究により示されている。本研究では大椎、神門、足三里への円皮鍼の置鍼により、運動負荷によるP300の減弱を抑制することを明らかにしている。また、プラセボ群ではこの効果は認められなかった。

事象関連電位の測定は国際的に認められている方法を取り、得られたデータの信頼性は高い。審査においては、研究内容を英文で表示し、研究内容を分かりやすく明確に表現した。また、プラセボの測定法やこの研究が鍼灸学においてどのような意義を持つのか、などの質問に明瞭に答えた。

本研究は思考力や認知機能の衰えを鍼が抑制する可能性を示しており、学術的価値は大きい。

以上の観点から、学位論文審査委員は、提出者の論文は博士（鍼灸学）として学位論文に値すると判定した。